

強い子・伸びる子の育て方 山崎房一

1996年の本。

お母さんのガミガミが無気力児をつくる

問題児には母子の信頼関係がない。

【母親講座の事例から】

いじめられっ子だった小学四年生の男子。お母さんとお風呂に入りました。

「お母さんのオッパイ、さわりたいなあ」

「いやらしい、男の子でしょう！..」

お母さんは手を払いのけていました。

この態度は間違っているとお母さんは母親講座で気づいたのです。子供がさわりたいと言ったとき、

「いいよ、お母さんのボイン素敵でしょう」

と抱っこして満足するまでさわらせました。

するとどうでしょう。この弱虫いじめられっ子は、まるで男の中の男に変身しました。お母さんの愛が確認できたからです。それからは、いじめられても勇敢に闘うようになったと、お母さんは話しながら目に涙をにじませていました。

——半身半疑。

親の希望を子に押し付けない

家庭教育で最も効果があることは、夫婦仲が良いことです。

命令で育てられた子供は自立心がなく、臆病で神経質。

親と子は別の人格ですから、親の思い通りに子供が行動しないのは当然です。

親がやってみせないと、子供は学ぶことができない。

一度忠告したらその忠告に従わせましょう。

妥協すると“しつけ”ができなくなります。

忠告する場合、次のような言葉を使わないように注意してください。

「あなたはいつも、こうなのね」

「また、やったのね」

「何回、言ったら分かるの、しょうがない子ね」

こんな言葉が出るのは子供に妥協している証拠です。口をとがらせてなじっても、子供は利口ですから耳をかきません。気安めのグチだからです。

「自分の価値を下げることはしないでね」

とさえ子供は素直になります。

妻にどのように接したらよいか

夫は大きな耳、楽しい口、やさしい目で熱心に聴くこと。

妻の欠点、短所、および過去の失敗、古傷には絶対さわらない、言わない、つかない。

妻の良い点や苦勞していることを、子供たちに話して聞かせる。